

静寂



CRFゼウス。
1999年に5回リミッターが事実上撤廃された1号機。
演出の秀逸さも勿論だが、再抽選の緊張は
経験者であればご存知だろう。
©SANKYO ©p-world

今回の言葉物語は「静寂」です。メーカー各社が工夫を凝らす遊技機開発の中にあるこだわりの瞬間をご紹介します。ていきたいと思えます。

高揚感引き出す工夫が

昨今の遊技機、特にパチンコでは回転率を下げる工夫として演出やリール時間が盛られる傾向にあります。特に版權タイプアップは世界観の再現として特にその傾向が強くなりがちです。メーカーの相手はホールなので、いかにも凄そうなギミックや演出を作りホールに買ってもらうよう努力します。制作側も採用されそうなフローや演出

どうなると良いのかが分らずに怒涛の演出フローに飲まれるということが往々にしてあります。

その一方で、その問題解決に向けてかは定かではありませんが、期待できる演出や「こそぞー」のポイント前に一瞬の「静寂の瞬間」を用いた緩急を付け、初見でも「何かが始まる」という高揚感を引き出す工夫をしているのでしよう。紙面の都合で紹介し切れず恐縮ではありますが、個人的なお気に入りにはほんの一部ご紹介したいと思います。

「脱・複雑演出」の武器に

個人的に「最高の静寂」を持つ機種の一つが1999年登場のSANKYO「CRFゼウス」です。図柄揃い後に再抽選演出があるのですが、無音で図柄が一つずつゆつくりと変わっていきます。



「CRひぐらしのなく頃に戯〜BS〜」
大当り発動の瞬間。
大一激熱図柄のてんとう虫柄出現で
大逆転の確変。勿論ここは無音。
静寂の中での歓喜がなく頃に製作委員会・創造
©2006電騎士07/ひぐらしのなく頃に製作委員会・創造
©2007電騎士07/難見沢御三家
©2009電騎士07/難見沢御三家 ©Daiichi

れら「静寂の瞬間」を入れた演出が増えてきており、複雑な演出フローの中で各社工夫をしてきているのが如実に分かるようになってきました。
打ち手は
意外とクール

昨今では思想の変化からか、

この絶妙な無音状態が興奮を最高潮にさせるのです。SX規格なら確変だと最低でも約4200発、突入は50%。特に5回図柄が回れば確変になるので、4回目の時に「回れ！回れ！」といつも念じていました。他演出でも間の活かし方が最高の名機です。現代の機種では2013年登場の「CRひぐらしのなく頃に」大当り発動の瞬間でしようか。この機種は図柄確定後に右上のチャッカー経由で大当りが発動するのですが、最後の右打ち指示の表示が出て発動させるまでの静寂がとてつもなく緊張し、最後まで目が離せない秀逸な遊技機です。無論、他機種でも藤商事「仄暗い水の底から」での停電クラッシュ予告の静寂やSANKYO「CR戦姫絶唱シンフォギア」での絶唱リール前に瞬間等多くで静寂の瞬間が盛り込まれています。特にここ数年でこ

例えば歌詞も詩的な表現から直接的な表現がウケる時代になりました。受け手の感受性が「1から10まで教えて」といった傾向にあり、文章や歌詞から「読み解く」ということをしなくなつたと聞きます。パチンコも同様かは定かではありませんが、少なくとも「これはアツいよ」「激熱ですよ」と盛り込んで演出で打ち手を盛り上げようとしています。打ち手は結構クールなもので、そこに見える感覚の隔たりがあるように感じます。

今はスマホを見ながら打つ時代。「ん？」と思わせ盤面に引き寄せる工夫も求められるのです。世に人気の機種は、その工夫が何かしらあります。是非探してみたい。ご自身が何故その機種が好きなのか、その理由がそこにあるかも知れません。

(大和田敏男)

無音の中に見える世界